

民主島根

2017年
7.23
第1292号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

松江 しまね総がかり行動が集会・パレード

400人が「憲法守れ！」

共産、民進、社民の代表らあいさつ



「守れ、生かせ憲法」のフライヤーを一斉に掲げる参加者(松江市)

しまね総がかり行動実行委員会は17日、松江市で集会を開き、約400人が参加しました。市民と野党の代表ら8人がリレートークし、「戦争させない」「野党は共闘」とコールしながらパレードしました。

基調講演で、東京大学の広渡清吾名誉教授は「国民全体を見渡すと日本国憲法と9条を支える広がりより大きくなっている」と述べ、戦争法や「共謀罪」法を強行してきた安倍政治について、国民に嘘を言う政治はファシズムや独裁政治の始まりだと批判。「市民と立憲4野党の共同力で、安倍政治に反対する強力な部隊を作る必要があります。私もみなさんとともに頑張る決意を表



明します」と訴えました。

日本共産党の尾村利成党副委員長、民進党の亀井亜紀子県連副代表、社民党の山本誉県連副代表があいさつしました。

党創立95周年「**共産党の躍進を**」

岩田 衆院島根1区、**尾村** 県議らが宣伝

日本共産党の岩田たけし衆院島根1区予定候補は党創立95周年の15日、松江市内の商業施設前で尾村利成県議、松江市議団らとともに宣伝し、「総選挙で市民と野党

知人と一緒に来た男性(25)は「アメリカ追隨の姿勢をやめてほしい。北朝鮮に対し、軍事力ではなく、対話で応じてほしい」と語りました。

共同の前進と日本共産党の躍進で、国民無視、ごう慢な安倍暴走政治を終わらせよう」と呼びかけました。(写真)

岩田氏は、安倍政権の「森友」「加計」疑惑などの国政私物化や憲法を壊す政治を厳しく批判。「安倍政権に国政を担う資格はありません。平和と民主主義のためにたたかい抜いてきた日本共産党と新しい政治を一緒につくりましょう」と訴えました。学生から声援が寄せられました。



日本共産党の尾村利成県議は6月県議会最終日の7日、「島根原子力発電所1号機廃止措置計画に係る最終的な了解を了とした」委員長報告に反対する討論を行いました。(写真)

島根原発1号機の廃止措置計画 尾村県議が質疑・反対討論

上で、「中国電力の廃止措置計画は、原発の廃炉解体計画と同時、使用済み燃料を再処理し、危険なプルトニウムを燃やすプルサーマル運転がセットとなつていく」と述べ、「毒入り計画」と批判。「最大の問題は、島根原発の再稼働が前提となつており、危険なプルトニウムを島根原発2号機で燃やすプルサーマル発電が盛り込まれていることだ」と指摘しました。

採決の結果、日本共産党県議団と民主県民クラブの2名だけが反対しました。

島根のお米を守ろう

松江 県農民連がシンポジウム

県農民連は16日、米づくりと米の流通を考えるシンポジウムを松江市で開き、100人が参加しました。

県農産園芸課の長野正己課長が県内農業の現状について特別報告した後、パネリスト3氏が発言しました。

松江市ライスフィールの吉岡雅裕社長は、家族経営に限界を感じ、農業生産法人を設立したこ

と、人づくりを重視して農地を維持できるよう努力しているとの報告。おおくいずも農民連の田食道弘事務局長は、有害鳥獣など厳しい状況にふれつつ、「400袋の仁多米を東京や大阪、愛知に出荷できるところまで来た」と語りました。農民連ふるさとネットの根本敬代表は「農家以上に流通業者が米生産に危機感を持っている」と述べました。

「島根原発問題」での意見交換会
8月4日(金) 18:30~20:00
県議会・議事堂別館1F 大会議室

- 島根原発をめぐる状況報告
- 池田豊氏、市川章人氏(京都自治体問題研究所・原子力災害研究会)からの報告 ほか

主催:日本共産党島根県議団

鼓動

7月15日、日本共産党は創立95周年を迎えた。党創立95周年記念講演会で不破哲三社研所長は、95年のたたかいの中で歴史が決着をつけた3つのたたかいは振り返つた▼戦前、侵略戦争をすすめた天皇制の暗黒政治と命がけでたたかつた。戦後、党の議長を務めた宮本顕治氏は1944年、宮本百合子さんに書簡でこう書いた。「人生を漂流して行くのでなく確乎として羅針盤の示す方向へ航海しているという事は、それにどんなに苦勞が伴おうと、確かに生きるに甲斐ある幸福だね」。弾圧にも屈せず、社会進歩への展望をもってたたかいた先輩たち。このたたかいは戦後の憲法に戦争放棄、主権在民の原則として刻みこまれた▼戦後、日本共産党は旧ソ連などの覇権主義とたたかい、このたたかいはソ連共産党の崩壊などという形で終止符が打たれた。日本国内では「日本共産党を除く」という「オール与党」体制とたたかい、前進を阻む逆風の中、なかなか躍進できない時期が続いた。しかし、党と市民の共同したたたかいで「日本共産党を除く」という「壁」は過去のものとなり、日本共産党は躍進を続けている▼7月、東京都議選で日本共産党は躍進。志位和夫委員長も出席した国連会議で人類史上初めて核兵器禁止条約が採択された。島根でも「共産党に入りた」と高校生が入党を申し込むなど若者たちも含めとびこむように党に加わっている▼5年後は党創立100周年。さらに多くのの方に、党に加わるとともに「赤旗」をご購読いただくことを心からよびかけたい。(後)

多床室・特養施設の整備助成を

2園長らが県健康福祉部長と懇談

社会福祉法人松江福祉会の須山俊二理事長と同法人の特養ホーム長命園の谷口稔園長、特養ホームひまわり園の常陸実園長ら3氏が10日、県庁



を訪れ、特養多床室の施設整備補助を求め、吉川敏彦健康福祉部長、稲田勝高年齢福祉課長らと意見交換しました。日本共産党県議団が同席しました。(写真)

常陸氏は「ユニット型個室は利用者負担が高額となるため、多床室を希望される人が多い」と指摘。「多床室の経営は厳しいが、金額面から個室に入れない利用者を支えていきたい」と述べました。谷口氏は「家族の中に一人でも過ごす個室より

「安倍改憲」ストップへ

県憲法会議が総会、記念講演

県憲法会議は15日、松江市で総会を開きました。「沖繩から見た日本国憲法とは」をテーマに、

県弁護士会憲法委員会の小西碧弁護士が3年半を沖繩で過ごした体験をふまえながら講演し、40人が参加しました。小西氏は、沖繩の歴史が琉球王国から廃藩置県で「沖繩県」となり、1952年には米軍支配下

多床室で賑やかに過ごさせたいという人もある」とし、県としての整備補助金創設を求めました。

県は、アンケート等で利用者や家族の声を把握できないものか、検討してみたいと話しました。

地域の話 アタタコ

命と健康を守る町に 奥出雲 川西議員が質問

日本共産党の川西明徳議員は、格差と貧困が広がる中、生活困窮者が社会保障制度から排除されている実態が進行している指摘し、国保

税や介護保険料の滞納状況と滞納者の命と健康が守られているのか、勝田町長に質しました。

町長は「国保税の滞納者と滞納額は大幅に減少している。介護保険料は横ばい。滞納者の生活を把握し、必要な支援は行う」と答えました。

また、川西議員は、国保の都道府県化の狙いについて「県に国保財政

まちづくりを念頭に「中心市街地活性化基本計画」の策定に向けて作業をすすめている。「福田かよ子のガンバルニュース」より

商店街の活性化を 福田議員が要求

福田議員「2015年5月にパルが倒産してから2年、様々な努力はあったものの、そのままの状態となっている。市の玄関口として、住んでいる人が安心して暮らせるよう一日も早い対策を取るべきと考えるがどうか。

産業振興部長「新たな小売店舗の誘致に向けて取り組みましたが、誘致できていない。駅周辺の再生のために、新たな

市街地活性化基本計画の策定に向けて作業をすすめている。「福田かよ子のガンバルニュース」より

風車設置の規制を 森川議員が提案

森川議員「嘉久志町で小型風力発電施設の設置が問題となった。風車による騒音や低周波、景観などへの影響をどう考えているのか。

答弁「昨年、業者から設置に関わる規制について問い合わせがあった。現在、法的な規制はなく、景観条例上の手続きが必要だと指導したところだが、設置の場所や数によつては住民生活に影響がある。高さ13メートルを超え

る工作物は届出が必要と

県内「国民平和進行」日程

- 7月23日(日) 松江・玉湯
- 7月24日(月) 平田
- 7月25日(火) 斐川・出雲
- 7月26日(水) 出雲
- 7月27日(木) 加茂・大東・仁多・横田
- 7月28日(金) 木次・三刀屋
- 7月29日(土) 掛合・吉田
- 7月30日(日) 頓原・赤名(広島県へ引継ぎ)

なることから、景観上の問題として指導する。森川議員「住宅周辺には設置させないなど、条例制定を提案するがどうか。

答弁「嘉久志町の事態を受け、住環境を守るための「小型風力発電設置に関するガイドライン」を検討したい。「こうつ民報」より



(左から)大平、井上、志位、笠井の各氏ら

「核兵器禁止条約」の国連会議に参加して

~大平よしのぶ 衆議院議員 手記(上)~

「賛成122」とスクリーンに投票結果が映し出されると、会場は大歓声や指笛、万雷の拍手に包まれ、あちこちで握手やハグをしたり、涙を流す人の姿が――。

核兵器禁止条約が採択され、人類と決して共存しえない核兵器に「悪の烙印」が押された、まさに歴史的瞬間に立ち会うことができました。

核兵器の非人道性、被爆者の訴えやその生の姿は、一人ひとりの政府代表らに「何としてもこの条約をつくらねば」との勇氣と決意を呼び起こさせ、行動へと突き動かしていました。

キューバのベルソン軍縮大使は「この条約の歴史的意義を大いに知らせたい。この2週間、世界が70年間積み上げてきたものが結実したということ」と述べ、「私自身、広島を訪れ、被爆者の姿に触れる中で、この惨劇を二度と繰り返してはならないと固

く決意し、今度の条約起草にも臨んでいる」と話されていました。

また、日本と同じく「核の傘」の下に身を置くオーストラリアから参加した国会議員の方が国連会議で発言。「我が国の政府代表が参加していないのは非常に残念。しかし、私は被爆者のお話を伺い、リスクを背負ってでも、ここに来なければと、自らの意思と資金で参加した」と語つ

ど、それぞれが信頼し合う姿がありました。また、色々な立場のある各国同士もお互いを尊重し合いながら、理性と情熱をもって真剣に議論を交わし、一つひとつ一致点を確認し合意形成をはかりながら、この画期的な条約を作り上げていきました。

これこそ、民主主義だと感じましたし、「大國が上からものを言つて事が決まるような時代はもう終わった。綱領やこの間の大会決定がいう『世界の構造化』が平和な国際社会を築く上で巨大な力を発揮している」ことを目の当たりにし、肌身で実感することができました。そして、平和と民主主義が輝く国際社会を築く上では市民社会の役割抜きには語れなくなつたということでした。

改めて「世界諸国民一人ひとりの力が国際政治を動かす、つくりあげていくんだ」と、はつきりと確信することができました。その点では、ジェンダー精神、男女平等の重要性も痛感しました。(続く)

